

## 答辞

柔らかな日差しが降り注ぐこの頃、吹く風に春の訪れを感じる季節となりました。今日この佳き日に、先生方や保護者の皆様に見守られ、この学校を旅立てることを幸せに思います。

気がつけば六年という月日が流れ、高校生活に終止符を打とうとしています。入学した頃、遊園地のようなわくわく感と緊張感を抱いて登校したこの学校も、今では第二の家のような温かさを感じます。

学校生活を振り返ると、印象深かったいくつかの行事を思い出します。

修学旅行。コロナウイルスの影響で三年生の研修旅行が中止になってから、その他の宿泊行事も次々と中止になりました。やっと実施されたのは、五年生の十一月の修学旅行でした。フェリーも、奈良の鹿も、恋みくじも、新幹線も、これまで中止になった行事の分まで楽しみました。朝早く起きてロビーに集まってストレッチをしたり、バスの中で友達と過ごした一分一秒が大切な思い出です。また、奈良の空に見えた二重の虹は、この修学旅行をさらに彩ってくれました。

そして六年生の合唱祭。朝は七時四〇分から、放課後は十九時まで、休み時間も口ずさんでしまうくらい練習しました。本番一週間前には、音取りの難しさに焦りを感じたり、当日の舞台裏では緊張で胸がつまったりもしました。でも、なんとか自分たちの最大限を出し切って、その結果、上位を九期生で独占。勉強との両立に苦しみながらも毎日練習を重ねた努力が報われた瞬間でした。舞台の目の前の席で飛び上がって喜んだあの光景を、今でも鮮明に覚えています。

そんな充実した学校生活は、多くの方の支えがあってこそのものでした。

先生方。特に担任の先生方は、いつも近くで見守ってくれました。（～中略～）私たちの担任の先生は私たちの自慢をたくさんすると、他の先生から聞きました。私たちの担任の先生はすごく恥ずかしがり屋で、面と向かって想いは伝えてくれないけれど、先生たちが私たちを大好きなことはちゃんと伝わっています。授業も、行事も、生活指導も、進路指導も、たとえ自分の体が壊れようとも惜しまず、私たちのためにたくさんのことをしてくれました。九期生のためなら頑張れると言って、夜遅くまで職員室に残っていたあの時の姿。私たちも恥ずかしがり屋だから直接は言えなかったけれど、そんな四人の担任の先生が大好きです。これまでお世話になりました。そして、いつかまた会ったときに「やっぱり九期生の担任でよかった」と思ってもらえるように、これからもより一層頑張ります。私たちのこれからを楽しみにしててください。

在校生のみなさん。こんな九期生だけど、頼りにしてくれてありがとう。たくさん迷惑をかけたかもしれないけれど、後輩にかっこいい背中を見せたくて、私たちなりに頑張ってきました。少し緊張しながら廊下で声をかけてくれたり、右も左もわからなくていつも私に聞いていたりした後輩は、今ではすっかり大人になった。手を離れていくようで寂しい気もするけど、みんなをまとめる

姿は自信にあふれていてすごくカッコいい。そんな大好きな後輩と会えなくなると思うと、つい涙が出てしまいそうだけど、ぜひ私たちを笑顔で見送ってください。みんなの笑顔が、私たちのこれからの励みになります。

そして家族。どんな時もずっと一番近くで見守ってくれるおかげで、今日の卒業を迎えることができました。朝は眠くて口をきかなかったり、たくさんわがまま言ったりしてごめんなさい。でも、家を出る時は必ずいつてらっしゃいつて言ってくれたり、学校で辛いことがあったら真剣に話を聞いてくれてありがとう。子どもと一緒にいられる時間は貴重だからと、休みの日には必ず車で送迎してくれるお父さん。疲れたときはマッサージをしてくれたり、一番見た目が綺麗なオムライスを私にくれるお母さん。私が初めて挫折を経験した時に「今日はたくさん悔やみなさい。でも明日になったら一緒に前を向こう」と言って泣いている私を慰め励ましてくれる二人は、世界に誇れる自慢の家族です。今までらってきた言葉では言い尽くせないほどの愛情を胸に、卒業後も一步一步成長していきます。まだまだ迷惑をかけることばかりだけど、あと少しだけお世話になります。

最後に、九期生のみんな。明らかにサイズの大きい制服をぎこちなく着て、おどおどしながら教室に入ったあの日からもう六年。最初の頃は小学生みたいにはしゃいでたよね。おかわりじゃんけんで盛り上がった食堂の給食。バスの待ち時間が一瞬に感じられた友達との登下校。直前になって頭に叩き込んだ定期考査。でも、この学校がたくさんのことを教えてくれて、少しずつ大人になっていった。小テストの勉強をした昼休み。朝練から放課後遅くまで必死になった部活動。九期生は行事が大好きで、時には真正面からぶつかり合うこともあったけど、文化祭を自分たちで作り上げ、体育祭では大きな円陣を組んだ。行事が終わってからは、進路実現のためにひたむきに努力した。成績が伸び悩む時期もあったけど、隣には友達がいて、声に出さなくとも互いに応援し合ってた。だから自分も頑張ろうと思えた。友達は、行事もコロナも受験も全部と一緒に乗り越えた、いなくてはならない存在です。でも、もう八時二十五分に教室の椅子に座る日は来ない。もう放課後遅くまで残って笑い話をする日は来ない。何気ない毎日は、実は本当にきらきらしてた。普段は時間が来たら帰るのに、今日は時間を忘れてずっとここにいたいと感じる。いつも一緒にいてくれてありがとう。まだこれが最後なんて信じたくない。だから涙は流さずに、これからも今までみたいに出て笑い合おう。この大切な仲間と過ごした六年間は一生の宝物です。

この旅立ちを決してゴールではありません。これから先はもっと喜ばしい日々が続くかもしれないし、苦しい日々が続くかもしれません。しかし、私たちにはこの学校の卒業生としての誇りを胸に、これから起こる何事にも立ち向かう覚悟があります。不安を覆うほどの大きな夢とともに新たなスタートをきることに、今ここに誓います。

結びに、これまで私たちを支えてくださったすべての方々への御礼を申し上げるとともに、三鷹中等教育学校の更なる飛躍をお祈りし、卒業生の答辞といたします。

令和六年三月九日 卒業生代表 山口真季